

2016年2月期 (2015年3月1日～2016年2月29日)

決算説明資料



シン・ゴジラ

2016年7月29日公開

©2016 TOHO CO.,LTD.





2016年4月14日



東宝株式会社

阪急阪神東宝グループ

2016年2月期 通期 営業概況

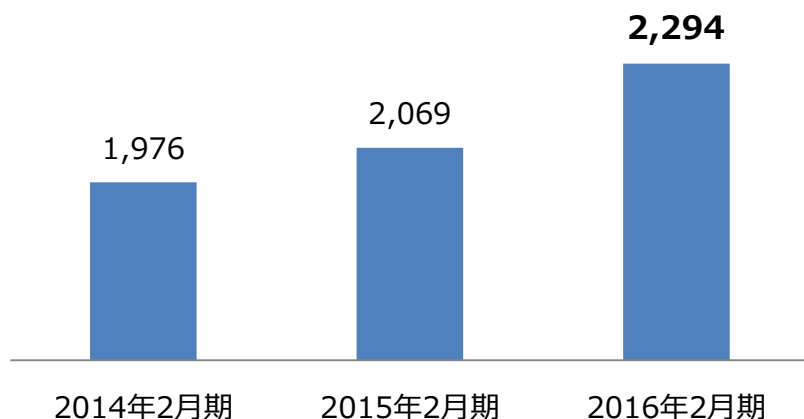
	2015年2月期 (2014年3月～2015年2月)	2016年2月期 (2015年3月～2016年2月)	前年度比	増減率
営業収入	2,069億円	2,294億3千2百万円	225億3千1百万円	10.9% 
営業利益	317億5千9百万円	407億1千万円	89億5千1百万円	28.2% 
経常利益	341億4千9百万円	424億7千1百万円	83億2千2百万円	24.4% 
当期純利益	224億7千9百万円	258億4千7百万円	33億6千7百万円	15.0% 

【当期の営業概況】

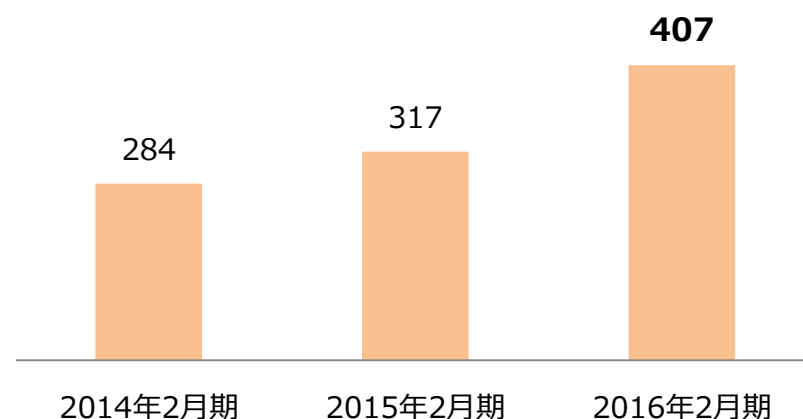
主力の映画事業では『バケモノの子』を筆頭にアニメ作品が業績を牽引したほか実写作品も高稼働。また邦画・洋画の大作が揃い大盛況となった夏興行と、正月興行を席卷した『スター・ウォーズ/フォースの覚醒』(ウォルト・ディズニー配給)が興行収入110億円超の大ヒットを記録し映画興行事業にも好影響をもたらすなど、通期で作品に恵まれたことにより大幅な増収増益。演劇事業では『EndlessSHOCK15th Anniversary』『エリザベート』『RENT』『放浪記』『ピアフ』など人気公演が大盛況。不動産事業では「新宿東宝ビル」が業績に大きく貢献。通期では営業収入、営業利益、純利益のいずれも過去最高を記録。

営業概況 3 力年比較

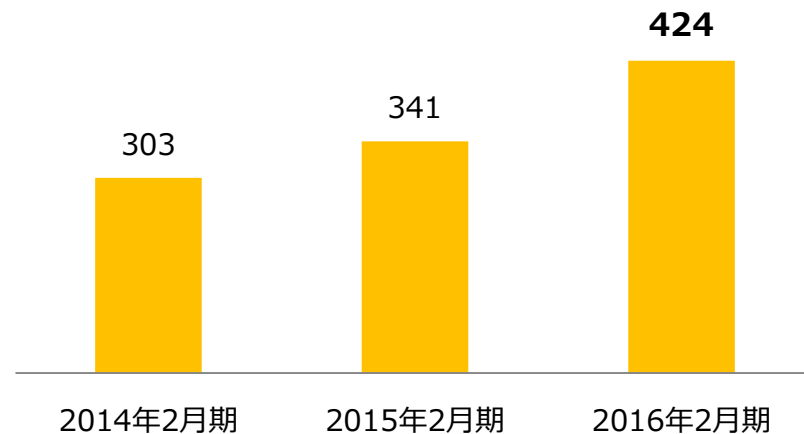
営業収入 (単位: 億円)



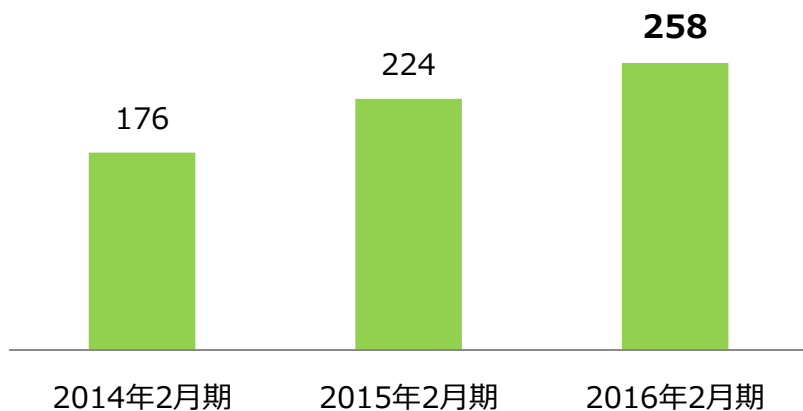
営業利益 (単位: 億円)



経常利益 (単位: 億円)



当期純利益 (単位: 億円)



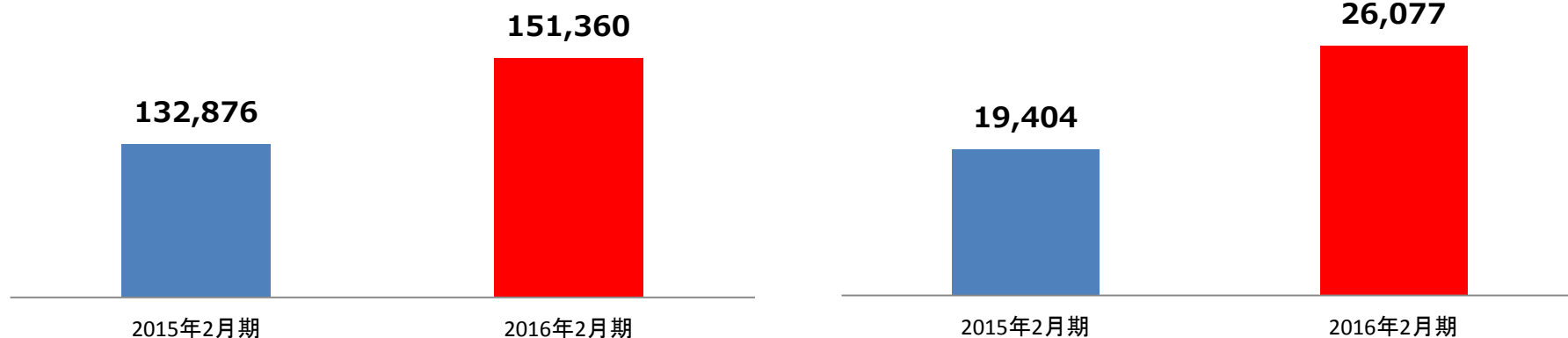
セグメント別業績一覧

	営業収入 (単位：百万円)			営業利益 (単位：百万円)		
	2015年2月期 (通期)	2016年2月期 (通期)	増減率(%)	2015年2月期 (通期)	2016年2月期 (通期)	増減率(%)
①映画事業	132,876	151,360	13.9 ↗	19,404	26,077	34.4 ↗
映画営業	38,228	49,217	28.7 ↗	8,564	11,633	35.8 ↗
映画興行	65,305	73,518	12.6 ↗	6,830	9,031	32.2 ↗
映像事業	29,342	28,623	2.4 ↘	4,009	5,411	35.0 ↗
②演劇事業	13,869	14,978	8.0 ↗	2,483	3,482	40.2 ↗
③不動産事業	59,181	62,120	5.0 ↗	13,464	14,789	9.8 ↗
不動産賃貸	29,627	32,215	8.7 ↗	10,798	12,009	11.2 ↗
道路事業	20,071	20,278	1.0 ↗	1,778	1,864	4.9 ↗
不動産保守・管理	9,482	9,626	1.5 ↗	887	915	3.2 ↗
④その他事業	973	973	0.0 ↗	28	30	7.3 ↗

セグメント別業績【映画事業】

営業収入 (百万円)

営業利益 (百万円)



業績分析 (増減要因)

- 定番シリーズ(ドラえもん・クレヨンしんちゃん・名探偵コナン)に加え『バケモノの子』『映画 妖怪ウォッチ エンマ大王と5つの物語だニャン!』などのアニメ作品が業績を牽引したほか、『HERO』『信長協奏曲』『orange-オレンジ-』といった実写作品も高稼働。また、興行収入95億円超の夏休みNo.1ヒット作『ジュラシック・ワールド』や興行収入50億円超の大ヒットを記録した『ミニオンズ』など東宝東和配給作品も業績に貢献したことにより映画営業事業は前年同期比で増収増益。
- 上記作品のほか、邦画・洋画ともに近年稀にみる強力な作品が揃った夏休み興行が活況を呈し、秋興行では『アンフェア the end』『図書館戦争 THE LAST MISSION』(ともに当社配給)『ヒロイン失格』『マイ・インターン』(ともにワーナー配給)などが健闘。正月興行では『スター・ウォーズ/フォースの覚醒』(ウォルト・ディズニー配給)が興行収入110億円を突破する期待通りの大ヒットを記録したことにより映画興行事業は前年同期比で大幅な増収増益。
- パッケージ事業において『血界戦線』『HERO』『暗殺教室』などのDVD及びBlu-rayの販売が堅調に推移し、出版・商品事業では、夏休み作品のほか正月作品『スター・ウォーズ/フォースの覚醒』のパンフレット、グッズ販売が好調な売上が記録。アニメ製作事業は、製作出資したTVアニメ『ハイキュー!! セカンドシーズン』『血界戦線』『干物妹! (ひもうと)うまるちゃん』等が業績に寄与したことにより映像事業は前年同期比で減収ながら増益。

映画－通期 主要稼働作品－

当社配給作品（興行収入30億円以上）

※2016年3月末日時点

作品名	公開月	興行収入
『バケモノの子』	2015年7月	58.5億円
『映画 妖怪ウォッチ エンマ大王と5つの物語だニャン！』	2015年12月	54.5億円
『HERO』	2015年7月	46.7億円
『信長協奏曲』	2016年1月	45.2億円
『名探偵コナン 業火の向日葵』 <small>ひまわり</small>	2015年4月	44.8億円
『映画ドラえもん のび太の宇宙英雄記』 <small>スペースヒーローズ</small>	2015年3月	39.3億円
『進撃の巨人 ATTACK ON TITAN』	2015年8月	32.5億円
『orange-オレンジ-』	2015年12月	32.3億円



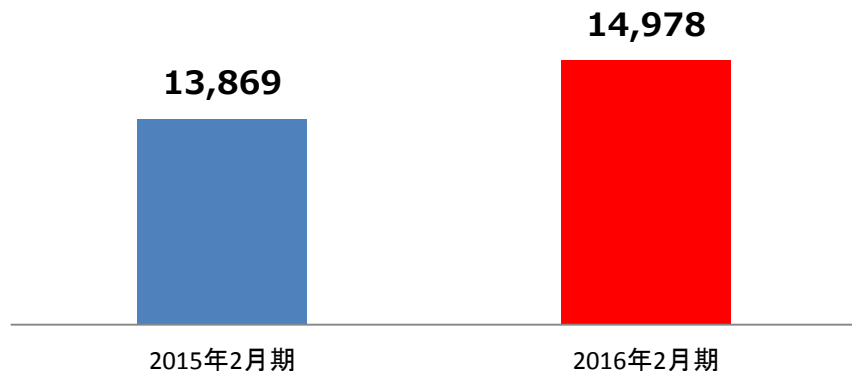
東宝東和配給作品（興行収入30億円以上）

作品名	公開月	興行収入
『ジュラシック・ワールド』	2015年8月	95.3億円
『ミニオンズ』	2015年7月	52.1億円
『ワイルド・スピード SKY MISSION』	2015年4月	35.4億円

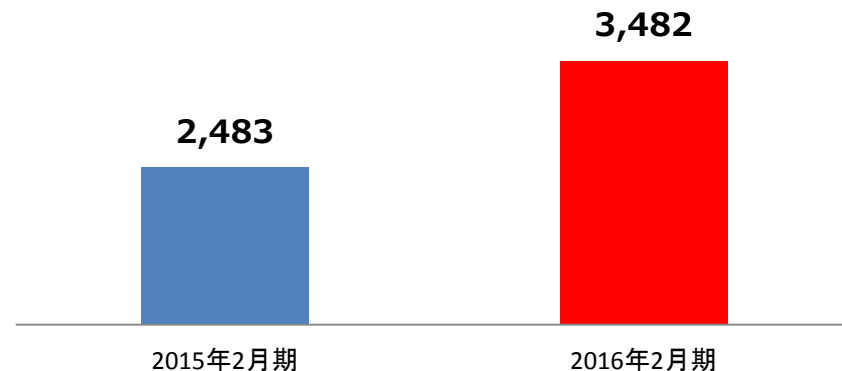
『信長協奏曲』©石井あゆみ／小学館 ©2016 フジテレビジョン 小学館 東宝 FNS27社
 『映画 妖怪ウォッチ エンマ大王と5つの物語だニャン！』© LEVEL-5／映画『妖怪ウォッチ』プロジェクト 2015
 『ジュラシック・ワールド』©Universal Pictures and Amblin Entertainment
 『ミニオンズ』©UNIVERSAL STUDIOS

セグメント別業績【演劇事業】

営業収入 (百万円)



営業利益 (百万円)



業績分析 (増減要因)

- 帝国劇場では、上期『Endless SHOCK 15th Anniversary』(3月公演)『レ・ミゼラブル』(4～6月公演)が大入りとなった後、約3か月のロングラン公演『エリザベト』(6～8月公演)が満員御礼となり業績を牽引。下期『DREAM BOYS』(9月公演)が完売、つづく『ラ・マンチャの男』(10月公演)『ダンス オブ ヴァンパイア』(11月公演)も堅調に推移した後、『JOHNNYS' World』(12～1月公演)『Endless SHOCK』(2月公演)と2公演連続の完売、満員御礼が続き大盛況。
- シアタークリエでは、上期『ジャニーズ銀座2015』(4～6月公演)『貴婦人の訪問 THE VISIT』(8月公演)が満員御礼。下期に入り、待望の再演『RENT』(9～10月公演)が高稼働を記録した後、仲間由紀恵を主演に迎えて復活した『放浪記』(10～11月公演)『REPAIR～アナタの人生、修理(リペア)しませんか?～』『ドッグファイト』(ともに12月公演)『ピアフ』(2月公演)と、大入り公演が続き大盛況。
- 帝国劇場、シアタークリエ、ともに完売公演が増加し大盛況となったことで演劇事業は営業収入、営業利益が過去最高を記録。

演劇一通期 主要稼働作品一



帝国劇場公演
『Endless SHOCK 15th Anniversary』



帝国劇場公演
ミュージカル『レ・ミゼラブル』



帝国劇場公演
ミュージカル『エリザベート』



シアタークリエ公演 ミュージカル『RENT』



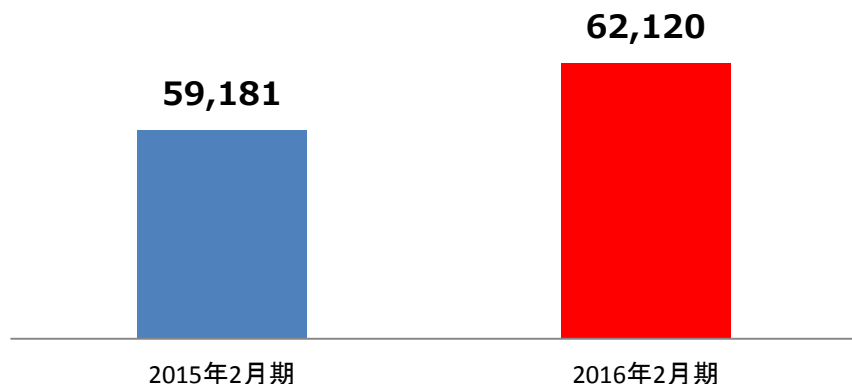
シアタークリエ公演 『放浪記』



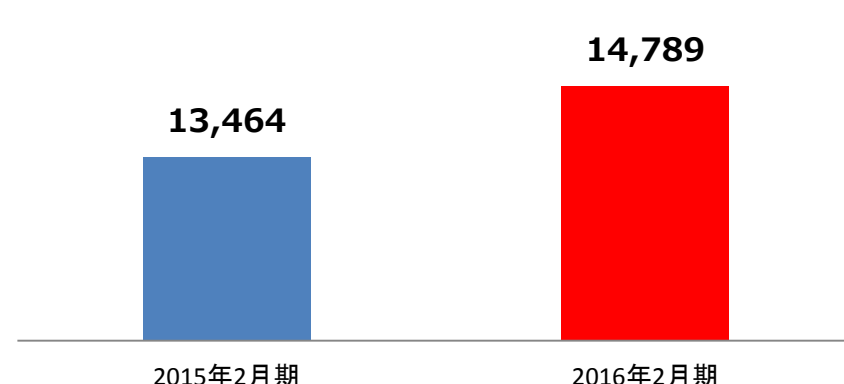
シアタークリエ公演 『ピアフ』

セグメント別業績【不動産事業】

営業収入 (百万円)



営業利益 (百万円)

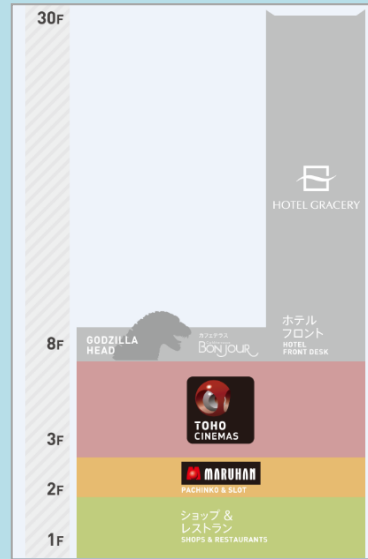


業績分析 (増減要因)

- 不動産賃貸事業では、4月に開業した「新宿東宝ビル」が主要テナントの「TOHOシネマズ 新宿」を中心に順調に稼働し、収益に寄与。また、11月には「札幌東宝公楽ビル」が開業。東宝スタジオでは、映画『信長協奏曲』『シン・ゴジラ』など当社配給作品を中心に41作品の撮影が行われたほか、CM撮影の誘致によりスタジオ収入は過去最高を記録。
- 道路事業では、スバル興業(株)が建設技能者の不足や資材価格の変動など厳しい情勢の中、道路の維持・管理、清掃・補修工事の受注等、積極的な営業活動に努めた結果、若干ながら前年同期比で増収増益。
- 不動産保守・管理事業では、(株)東宝サービスセンター、東宝ビル管理(株)において労務費や資材価格の高騰など厳しい経営環境が続く中、新規受注とコスト削減に取り組んだ結果、前年同期比で増収増益。

不動産 – TOPICS –

2015年4月17日
新宿東宝ビル 開業



2015年11月28日
札幌東宝公楽ビル開業

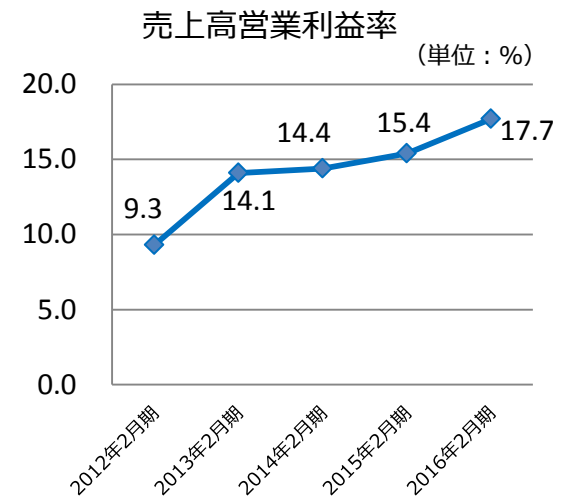
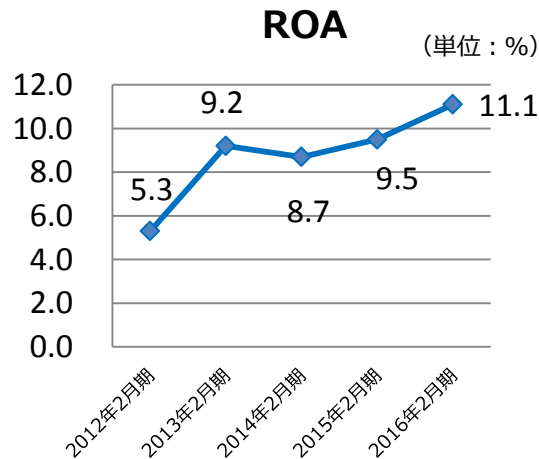
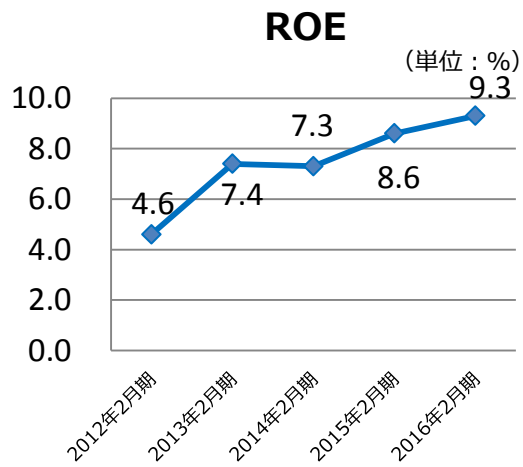


TOHOシネマズ 新宿
(12スクリーン)



－経営指標の推移－

	自己資本 当期純利益率 (ROE)	総資産 経常利益率 (ROA)	売上高 営業利益率
2015年2月期	8.6%	9.5%	15.4%
2016年2月期	9.3%	11.1%	17.7%



映画 & 演劇 話題の待機作品



MOVIE LINE UP



2016年5月14日（土）全国東宝系にてロードショー

累計100万部を突破したベストセラー小説を完全実写化！
2016年、最も泣ける感動エンタテインメント誕生！！

『世界から猫が消えたなら』

原作：川村元気「世界から猫が消えたなら」

監督：永井 聡

出演：佐藤健 宮崎あおい 濱田岳 奥野瑛太 石井杏奈 奥田瑛二 原田美枝子

©2016 映画「世界から猫が消えたなら」製作委員会



2016年7月29日（金）全国東宝系にてロードショー

2016年、ゴジラ“誕生”

総監督：庵野秀明（「エヴァンゲリオン」）が描く、まだ誰も見たことがないゴジラ。

『シン・ゴジラ』

脚本・総監督：庵野秀明

監督・特技監督：樋口真嗣

出演：長谷川博己 竹野内 豊 石原さとみ

©2016 TOHO CO.,LTD.



2016年8月6日（土）全国東宝系にてロードショー

累計発行部数100万部を誇る児童文学の不朽の名作。

超大型フル3DCGアニメーション映画になって登場！

『ルドルフとイッパイアッテナ』

原作：「ルドルフとイッパイアッテナ」「ルドルフともだちひとりだち」（斉藤洋・作 杉浦範茂・絵／講談社刊）

監督：湯山邦彦 榊原幹典

声の出演：井上真央 鈴木亮平 八嶋智人 古田新太

©2016「ルドルフとイッパイアッテナ」製作委員会

STAGE LINE UP



2016年4~5月
帝国劇場公演

ミュージカル
『1789 バスティーユの
恋人たち』



2016年8月 帝国劇場公演
ミュージカル 『王家の紋章』

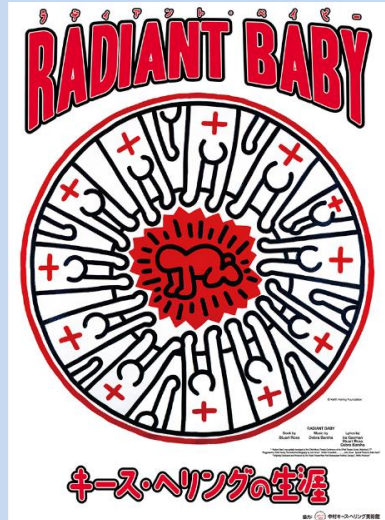
2016年4月
シアタークリエ公演

ミュージカル
『エドウィン・ドルードの謎』



2016年6月
シアタークリエ公演

『ラディアント・ベイビー
~キース・ヘリングの生涯~』



配当予想・業績予想

①配当の状況

	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2015年2月期	—	5.0	—	20.0	25.0
2016年2月期	—	12.5	—	17.5	30.0
2017年2月期（予想）	—	12.5	—	12.5	25.0

期末配当金の内訳 2015年2月期 特別配当 15円00銭 2016年2月期 特別配当 5円00銭

②2017年（平成29年）2月期 連結業績予想

%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株あたり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
第2四半期 (累計)	111,210	△10.2	16,770	△31.1	17,360	△32.2	11,450	△27.6	62.12
通 期	216,700	△5.5	33,000	△18.9	34,400	△19.0	22,300	△13.7	120.98

本資料におけるご注意

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが、実際の業績は様々な状況変化や要因により見通しと大きく異なる結果となることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。

また、本資料の無断転載はお断りいたします。



東宝株式会社

本資料に関するお問合せ
総務部 広報・IR室
TEL. 03-3591-1303